



# 2023

令和5年度

## JOC国際人養成アカデミー

### 報告書 要約版

## JOC International Sports Leader Academy

### CONTENTS

#### 実施概要

趣旨	02
受講対象者	02
受講要件	02
日程／会場	02
カリキュラム	03
JISLAの特徴	04

#### 実施結果

受講者数／競技団体別受講者数	06
受講者評価	07
受講者／修了者の国際ポスト獲得状況	07

# 令和5年度 「JOC国際人養成アカデミー(JISLA)」 開催要項

## JOC International Sports Leader Academy

本会は、令和5年度のJOC国際人養成アカデミー（JOC International Sports Leader Academy / JISLA）を以下のように開催しましたので報告します。

### 実施概要

#### 趣旨

本アカデミーは、国内スポーツ組織が国際スポーツ組織との関係を強化することへの支援を目的にした、人材の国際力向上を図る人材育成事業である。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織等の政策決定過程に関与できる人材、国際的な折衝において活躍できる人材、あるいは国際連携・貢献を実践できる人材の育成を目指す。

#### 受講対象者

- 本会加盟団体から推薦される下記の者  
将来、所属団体を代表してIOC、OCA、IF / AF等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員（審判、競技ルール、医事、コーチング、マーケティング等）、事務局員または国際競技大会のディレクター等に就任し、その団体や組織の政策決定過程に関与することを目指す具体的な計画がある者。あるいはそれを目指して研鑽を積むことができる者。
- その他本会が認めた団体から推薦を受けた者。

#### 受講要件

- 受講者を推薦する団体は、当該団体のIF / AFポジション獲得計画を含む国際戦略、及び推薦される受講者がその国際戦略にどのように位置づいているかのプランを策定してあること。策定されたプランは、別添様式にて提出しなくてはならない。
- 英語力はおおむねCEFR（Common European Framework of Reference for Languages）B1レベル以上の者。

#### 日程／会場

日程は下記で実施された

第1週：6 / 16～18、第2週：7 / 7～9、第3週：7 / 28～30、第4週：8 / 25～27、第5週：9 / 15～17、第6週：10 / 6～8、第7週：10 / 27～29、第8週：11 / 17～19 の全8週間。

毎週の標準的なスケジュール

	金曜日	土曜日	日曜日
9:00～10:15 1時間目		英語による講義②	講義①
10:30～11:45 2時間目		英語による講義③	講義②
休憩11:45～12:45			
12:45～14:00 3時間目		英語による講義④	講義③
14:15～15:30 4時間目		演習を伴う講義	講義④
15:45～17:00 5時間目			アッセンブリ
17:15～18:30 6時間目			
19:00～20:15 7時間目	英語によるグループワーク		
20:30～21:45 8時間目	英語による講義①		

研修会場：味の素ナショナルトレーニングセンター・ウエスト

宿泊施設：味の素ナショナルトレーニングセンターアスリートヴィレッジ

カリキュラム

カテゴリー		コマ数	合計 コマ数	科目名		講師名	
大分類	小分類			科目名	講師名		
A	スポーツリーダーとして持つべき基礎知識	基礎	1	A1	ジェンダー・エクイティ	山口 理恵子 (城西大学経営学部マネジメント総合学科教授、公益財団法人日本オリンピック委員会アントラージュ専門部会部会員)	
		基礎	2	A2	オリンピック憲章とオリンピックアジェンダ2020+5	来田 享子 (中京大学スポーツ科学部教授、日本オリンピック・アカデミー理事)	
		政策	1	A3	今後のスポーツ政策の展開について	八木 和広 (スポーツ庁参事官 (国際担当))	
		マーケティング	1	A4	競技普及に繋がるNFマーケティングの考え方	坂田 洋治 (公益社団法人日本トライアスロン連合マーケティング・事業局長)	
		リーガル	1	A5	国際スポーツ組織の決定、処分とスポーツ仲裁	松本 泰介 (早稲田大学スポーツ科学学術院教授)	
		外交	1	A6	スポーツ外交	渡邊 慎二 (外務省大臣官房人物交流室室長)	
		ダイバーシティ	1	A7	JBFAについて～パラスポーツNF理解の一助として～	松崎 英吾 (NPO法人日本ブラインドサッカー協会専務理事)	
		財務	1	A8	数字で組織を動かす～明日から使える経営管理～	大森 康弘 (アビームコンサルティング株式会社戦略ビジネスユニットシニアマネージャー)	
		戦略	1	A9	JOC選手強化中長期プロジェクト	水鳥 寿思 (公益財団法人日本体操協会男子強化本部長、公益財団法人日本オリンピック委員会理事/選手強化中長期戦略プロジェクトリーダー)	
B	国際スポーツリーダーとして持つべき知見	競技会招致	1	B1	日本の国際スポーツイベントの課題と未来	川廷 尚弘 (国際テニス連盟理事、公益財団法人日本テニス協会副会長)	
		リスクマネジメント	1	B2	スポーツウォッシング	西村 章 (フリーランスジャーナリスト、翻訳家) 聞き手：高谷 正哲 (公益社団法人日本トライアスロン連合理事)	
		ベッティング	1	B3	諸外国のスポーツくじ・スポーツベッティングの動向	稲垣 弘則 (西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 パートナー弁護士、一般財団法人スポーツエコシステム推進協議会代表理事)	
		ガバナンス	1	B4	国際的動向にみるグッドガバナンスの本質	川井 圭司 (同志社大学政策学部・総合政策科学研究科教授、日本スポーツ法学会副会長)	
		サステナビリティ	1	B5	SDGsとスポーツ	小熊 祐子 (慶應義塾大学スポーツ医学研究センター・大学院健康マネジメント研究科准教授)	
		スポーツ産業	1	B6	スポーツ産業の変化～持続可能な回復に向けて～	菅原 政規 (PwCコンサルティング合同会社ディレクター、早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員)	
		IF/AFポジション	1	B7	国際人材へのプラン	大塚 眞一郎 (ワールドトライアスロン副会長、公益社団法人日本トライアスロン連合専務理事/事務総長)	
	ケーススタディ	IF役員の活動	1	B8	国際人材のケーススタディ (IF/AF役員)	望月 宣武 (公益財団法人日本セーリング連盟常務理事、アンアセーリング連盟執行委員)	
		IF委員/審判	1	B9	国際人材のケーススタディ (国際審判、IF/AF委員会委員)	加藤 誉樹 (公益財団法人日本バスケットボール協会JBA公認プロフェッショナルレフェリー、国際バスケットボール連盟 (FIBA) 国際審判員) 山田 博子 (一般社団法人全日本女子野球連盟代表理事、一般財団法人全日本野球協会常任理事)	
		IF事務局	1	B10	国際人材のケーススタディ (IFスタッフ)	岩片 里会子 (ワールドスケートスケートボード、一般社団法人ワールドスケートジャパンアーティスティック競技委員会副委員長) 藤野 隆弘 (国際バレーボール連盟プロジェクトマネージャー)	
C	グローバルマインドセット	マナー	1	C1	国際スポーツイベントにおけるマナー・プロトコルの意義	小林 龍一郎 (外務省領事局外国人課首席事務官)	
		異文化理解	2	C2	異文化理解力	田岡 恵 (合同会社ミッレ代表社員)	
		宗教	2	C3	世界の宗教概論	中村 圭志 (昭和女子大学非常勤講師)	
		政治	1	C4	スポーツから見る東アジア史	高嶋 航 (早稲田大学スポーツ科学学術院教授)	
D	国際人材の本質的条件となる考え方、意識	思考力	4	D1	ロジカル・シンキング&コミュニケーション	照屋 華子 (ビジネス・ブレイクスルー大学大学院教授)	
		思考力	3	D2	戦略的思考～組織の目的、存在理由～	岩淵 匡敦 (ボストン・コンサルティング・グループ合同会社マネージング・ディレクター&パートナー、至善館大学院 Associate Professor)	
		思考力	2	D3	価値ある提案の技術	守屋 麻樹 (ローレルゲート株式会社代表取締役、NPO法人コーチ道理事)	
		リーダーシップ	3	D4	リーダーシップとチーム行動	杉本 豊 (インパクトジャパン代表取締役会長兼CGO)	
		リーダーシップ	2	D5	組織を動かす力	田久保 善彦 (グロービス経営大学院副学長)	
E	国際コミュニケーション演習	Public Speaking	8	E1	基礎演習 Individual Presentation	ベルリッツ・ジャパン株式会社	
		Global Teaming	7	E2	基礎演習 Motivate & Inspire people		
		Assertive Communication	11	E3	基礎演習 Networking & Lobbying		
		Negotiations	7	E4	基礎演習 Simulations		
		Team Project	9	E5	チームプロジェクト (事前準備) チームプロジェクト (発表)		
F	アセスメント	English Essay	1回	F1	英文レポート課題		
			1回	F2	口頭試問 (修了試験)		
合計コマ数			82				

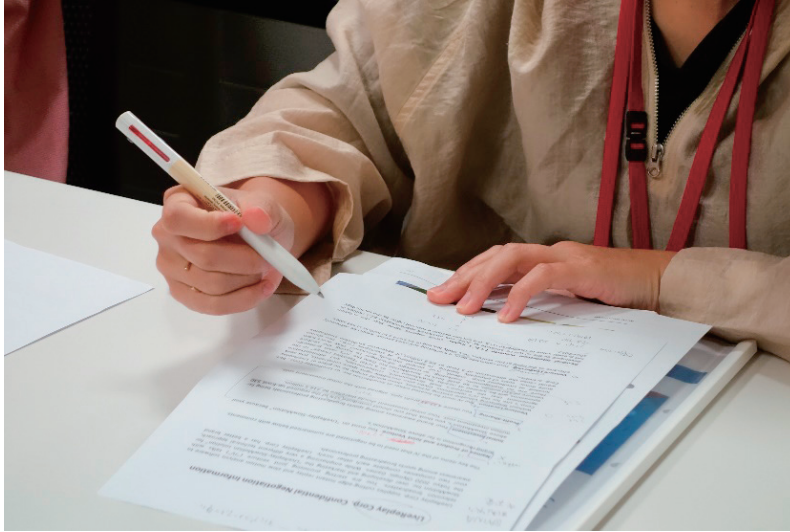
\*役職は本年度アカデミー開講当時のもの

## JISLAの特徴

### コースの概要

本アカデミーは、本会加盟団体である国内スポーツ組織が、国際スポーツ組織との関係を強化するために必要な人材を育成する人材育成事業です。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表してグローバルな環境で活動するために必要な、マインドセットやスキルを学んでいただきます。

- ・講義は82コマ（1コマ75分）で構成され、約半年の間に2泊3日の研修を8回実施します。
- ・受講にあたっては本会加盟団体からの推薦が必須で、事前の語学力アセスメントに合格する必要があります



### カリキュラム

グローバルな環境で活躍する人材は、海外スポーツ界に関する知識だけでなく、以下に係る知識やスキルを発揮することが求められます

- ・わが国とは異なる文化圏で暮らす人々は、我々とは異なる考え方や振る舞いをするところがあることを理解し、受け入れる必要があること
- ・国際スポーツ組織など組織の中で影響力を発揮するためには、伝わりやすい説明をする、あるいは最適な解決策を見出すために必要な、論理的思考力を発揮する必要があること
- ・シンプルで明快なコミュニケーションを好む欧米の人々と協働するには、高度なコミュニケーションスキルを英語で発揮する必要があること

これらを学ぶためのプログラムが、アカデミーには用意されています。



## 講義

- ・講師は、それぞれの分野を代表する専門家が担当します。
- ・講義の理解を深めるために、一部の講義にはアクティブラーニング（情報のインプットは事前課題として与えられ、講義当日は実践やディスカッションを行う）を導入しています。



## 受講者どうしの交流

- ・受講者どうしのディスカッションを重視しています。受講者同士のディスカッションを通じて学びとることが増えるだけでなく、異なる文化を背景にした人々と協働する際にもコミュニケーション力が必要なため、そのトレーニングの意味も含んでいます。
- ・本アカデミーは宿泊型研修です。完成に時間を要するグループ課題が課されれば、深夜までそれに取り組むこともあります。また、受講者どうしで、それぞれが所属する組織や抱えている課題や、将来の展望について語り明かすことも少なくないようです。



## 実施結果

令和5年度の受講者数、受講者によるアカデミーへの受講満足度調査結果、修了生/受講生による直近の（2022年12月以降）新規国際スポーツ組織（IF / AF）ポスト獲得状況は下記の状況であった。

### 受講者数

受講者数	詳細	修了者数
24名	新規受講24名	24名

\*開講（平成23年）以来の受講者数累計368名の詳細は以下の表を参照

JOC国際人養成アカデミー 競技団体別 受講状況

団体名	令和5年度	累計
(公財)日本陸上競技連盟	1	6
(公財)日本水泳連盟	1	11
(公財)日本サッカー協会	1	46
(公財)全日本スキー連盟		10
(公財)日本テニス協会		3
(公社)日本ローイング協会		5
(公社)日本ホッケー協会	3	12
(一社)日本ボクシング連盟		10
(公財)日本バレーボール協会		7
(公財)日本体操協会	2	7
(公財)日本バスケットボール協会	1	11
(公財)日本スケート連盟	2	13
(公財)日本アイスホッケー連盟		7
(公財)日本レスリング協会		2
(公財)日本セーリング連盟	1	9
(公社)日本ウエイトリフティング協会		8
(公財)日本ハンドボール協会	1	6
(公財)日本自転車競技連盟		3
(公財)日本ソフトテニス連盟	1	4
(公財)日本卓球協会		13
(公財)全日本軟式野球連盟		1
(公財)日本相撲連盟		4
(公社)日本馬術連盟		3
(公社)日本フェンシング協会		8
(公財)全日本柔道連盟		6
(公財)日本ソフトボール協会		3
(公財)日本バドミントン協会		3
(公社)日本ライフル射撃協会		4
(公財)全日本剣道連盟		2
(公社)日本近代五種協会		3
(公財)日本ラグビーフットボール協会	1	13

(年度別新規受講者数、2023年度終了時点)

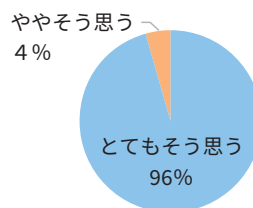
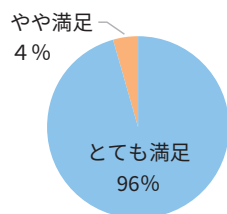
団体名	令和5年度	累計
(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会		7
(公社)日本カヌー連盟		1
(公社)全日本アーチェリー連盟		2
(公財)全日本空手道連盟	1	4
(公社)日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟		1
(一財)全日本野球協会	1	8
(公社)日本武術太極拳連盟		1
(公社)日本カーリング協会		5
(公社)日本トリアスロン連合	1	20
(公財)日本ゴルフ協会		1
(公社)日本スカッシュ協会		2
(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟		1
(一社)日本バイアスロン連盟	1	4
(一社)日本サーフィン連盟		1
(一社)ワールドスケートジャパン		2
(公社)日本アメリカンフットボール協会	1	7
(公社)日本チアリーディング協会		10
(公社)日本オリエンテーリング協会		3
(公社)日本パワーリフティング協会		4
(公社)日本コントラクトブリッジ連盟		2
(公財)日本スポーツ協会	1	10
(独)日本スポーツ振興センター		6
(特非)東京2020招致委員会 / (公財)東京2020組織委員会		2
(公財)愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会	1	1
(公財)日本スポーツ仲裁機構		1
(公財)日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会	1	3
(公財)日本オリンピック委員会	1	16
合計	24	368

注)本集計は新規受講者数を示しており、修了者の集計とは数値が異なる

## 受講者評価

アカデミーへの受講者による満足度調査を実施し、以下2項目について測定した。

(1)JISLA全体を振り返って、満足度はいかがだったでしょうか？ (2)JISLAの受講を他の人にも勧めたいと思いますか？



調査項目	得点
(1)JISLA全体を振り返って、満足度はいかがだったでしょうか？（総合的な満足度）	4.96
(2)JISLAの受講を他の人にも勧めたいと思いますか？	4.96

調査方法：無記名のアンケートを用いた満足度調査。全スケジュール修了後、受講者24名にLearning Management Systemを通じて依頼し、23名より回答を得た（回答率95%）。もっともポジティブな回答が5点、もっともネガティブな回答が1点の5点尺度。

## 令和5年度JOC国際人養成アカデミーフォローアップ研修会実施報告

**目的：**①国際人養成アカデミー修了生に、修了後も国際人材として成長し続ける・学び続ける環境を提供すること  
②修了生の期を超えた交流の場を設け、互いに学び・学ばせあうコミュニティを維持・強化すること

**内容：**①国際スポーツ界のカレントトピックについて、講師を招いて学ぶ  
②修了生どうしが交流・意見交換するためのワークショップを行う

**開催日：**2024年3月9日（土）10：00～13：00

**会場：**日本青年館8階 カンファレンスホールBlue

時間	内容
10:00-10:50	オープニング 主催者挨拶／横井 裕 日本オリンピック委員会副会長 JISLA近況の報告、交流アクティビティ
11:00-12:00	講義：中東とスポーツ 保坂修司／一般財団法人日本エネルギー経済研究所 中東研究センター理事、センター長
12:10-12:50	ディスカッション 講義内容について、受講生どうしのディスカッション
12:50	クロージング

**参加資格：**JOC国際人養成アカデミーを修了された方

**講師：**保坂修司

一般財団法人日本エネルギー経済研究所理事、中東研究センター長  
慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了。在クウェート・在サウジアラビア日本大使館専門調査員、中東調査会研究員、日本学術振興会カイロ研究連絡センター長、近畿大学教授等を経て現職。2019年から日本中東学会会長。著書に『ジハード主義』岩波書店、『サイバー・イスラーム』山川出版社、『イラク戦争と変貌する中東世界』山川出版社、『新版 オサマ・ビンラディンの生涯と聖戦』朝日新聞出版、『サウジアラビア』岩波新書、『乞食とイスラーム』筑摩書房等。



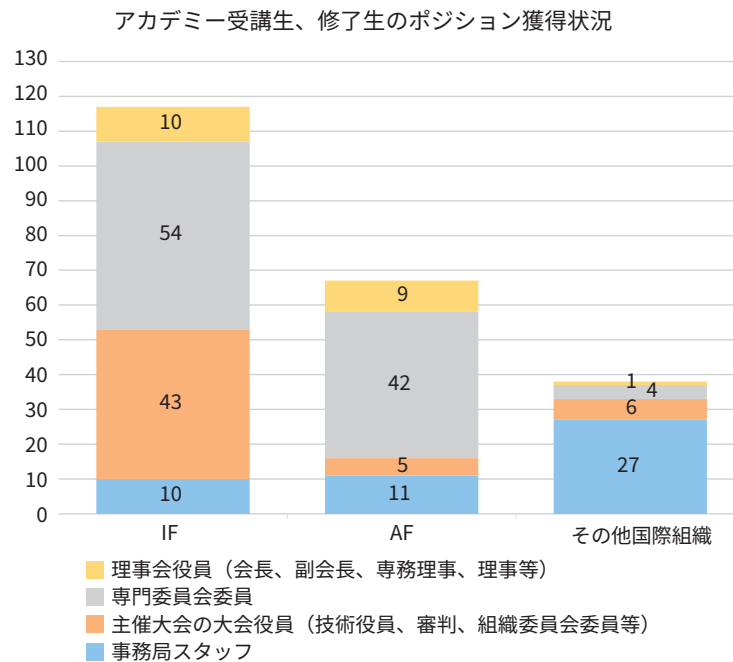
内容：研修には過去13年間の修了生の中から26名が参加した。講義では、中東研究者の保坂氏を講師として招き、近年アジアスポーツ界で存在感を高めつつある中東諸国の現状や彼らの狙い、そしてイスラム教の影響を受ける彼らの文化的特徴などについて解説頂いた。また、事務局が主導した交流アクティビティやディスカッションの時間を通して、受講生どうしが修了期を跨いで交流し、互いに学び合っていた。



参考情報

受講者／修了者の国際スポーツ組織ポスト獲得状況（累計）

平成23年度の開講以降すべての受講者が獲得した国際スポーツ組織（IF / AF等）のポスト、及びアカデミー受講者が受講開始時にすでに獲得済みであったポストを累計すると下記のとおりであった。



獲得ポスト数（累計）			
カテゴリー	IF	AF	その他国際組織
理事会役員（会長、副会長、専務理事、理事等）	10	9	1
専門委員会委員	54	42	4
主催大会の大会役員（技術役員、審判、組織委員会委員等）	43	5	6
事務局スタッフ	10	11	27

2024年1月末時点



---

# JOC 国際人養成アカデミー

## 令和5年度報告書 要約版

令和6年3月

編集・発行：(公財) 日本オリンピック委員会 国際部

〒160-0013

東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

Japan Sport Olympic Square 13階

TEL：03-6910-5956

FAX：03-6910-5960

印刷：ホクエツ印刷株式会社

---